

平成 19 年度後期 授業評価アンケート結果まとめ

ソフトウェア情報学部 評価委員会

1. 授業評価アンケート結果に基づく教員表彰

本制度は平成 15 年度後期分から継続的に実施している。目的は、授業アンケート結果を使って、教員の教育改善に役立たせることである。具体的な方法は、授業アンケートの質問項目を見つつ、評価委員会で議論して決定している。平成 19 年度授業評価アンケートの結果に基づく表彰は、以下の通り行なうことが決定されている。

評価方法：

「質問 10（教員の熱意）＋質問 13（満足度）」

- ・ 意図を明確にするため、少ない評価項目にしている
- ・ 科目の性質の差異に基づく影響を可能な限り排除し、教員が努力可能な質問に絞っている

評価対象：

学部の専門講義科目に限定し、下記の各カテゴリ毎としている。

- ・ カテゴリ I 専門共通科目の 4 単位科目（カテゴリ I を除く）
- ・ カテゴリ II 専門共通科目の 2 単位科目（カテゴリ I と II を除く）
- ・ カテゴリ III コース科目
- ・ カテゴリ IV 展開科目
- ・ カテゴリ V 関連科目の専門英語 I, II, III

ただし、下記を対象としない

- ・ アンケート数が履修者数の 50%以下
- ・ アンケート総数が 5 以下

その結果を

- ・ 各カテゴリの上位 3 位までを学内 Web で学生に公開する
- ・ 1 位の科目担当教員は、学部長から表彰を受ける
- ・ 全科目の集計リストは学部全教員に配付して、授業改善に資する。

平成 19 年度授業評価アンケート結果に基づき、以上の観点から「授業評価アンケートにおいて『教員の熱意』と『満足度』の 2 項目において評価の高かった教員」を選出する。現在、選出作業を実施中である。作業終了以降、教員会議で学部長から表彰する予定である。同時に結果は学部ホームページに公開する予定である。

2. 平成19年度後期授業評価アンケート結果の分析

2.1 学部全体の平均的な評価値

平成19年度の評価結果を図1に示す。

まず、評価値の読み方について記述する。「質問2、3、6～8」の五項目は5段階評価、残りの七項目（「質問1、4、5、10～13」、質問9は点数付与型ではない）は6段階評価であり、値の大小による単純比較はできない。さらに、5段階評価の五項目はすべて、受講者から見て最も妥当と思える場合の点数は3であり、3から離れるほど、いずれかの意味において妥当でないことを意味する。

以降では、6段階評価における肯定的評価と否定的評価の閾値を3.5点とする。6段階評価の七項目では、すべてにおいて閾値より肯定方向の評価と言える。ただし、閾値3.5をわずかに上回る程度のものもあり、より良い評価となることが望まれる。

5段階評価の五項目はすべて、3.0～3.8の間に位置しており、概ね妥当との評価と言える。

学部専門科目は、講義科目と演習科目に分けられ、これら2つの分類での授業評価結果の違いの有無を調べた。その結果、「質問8：授業の難易度」の一項目のみで微差で授業科目の方が良い評価が得られているものの、残りの11項目では「演習科目の方が授業科目より良い評価が得られている」ことがわかった。

以降の分析では、演習科目と講義科目に分けて分析検討を進める。

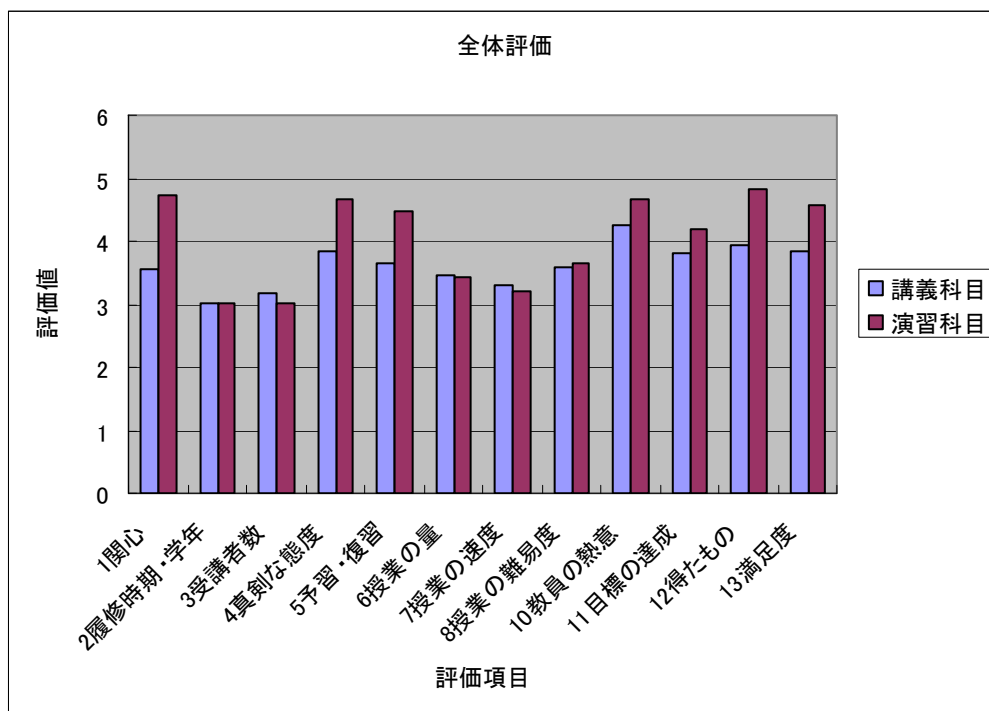


図1 平成19年度の全体評価結果

2.2 カテゴリ別評価

(1) 演習科目

図2に演習科目の評価値を示す。

前述の通り質問2, 3, 6~8は五段階評価であり「⑥」は存在しない。6段階評価の七項目ではすべて、肯定的回答をした回答者が70%を越えている。また、5段階評価の五項目では、「質問8：授業の難易度」を除く4項目で、「妥当である」ことを示す「③」と回答した回答者が50%を越えている。この状況は平成17, 18年度と大きな変化はなく、基本的には本学部の演習科目は、受講者から概ね肯定的に評価されていると判断される。「質問8：授業の難易度」については、「難しい」ことを示す「④、⑤」の回答が50%を越えているのに対し、「易しい」ことを示す「①、②」の回答は5%未満である。受講者にはどちらかと言えば、難しく感じられているようである。

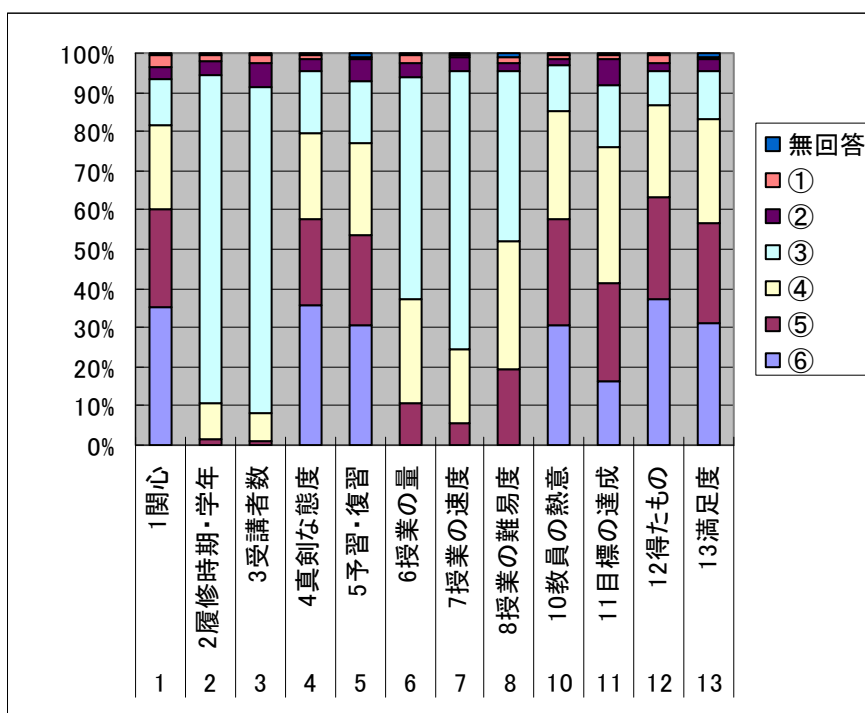


図2 演習科目 平成19年度後期評価値

(2) 講義科目

図3に講義科目の評価値を示す。

こちらでは、6段階評価の七項目では、「総合評価」として位置付けられている「質問10：教員の熱意」、「質問11：目標の達成」、「質問12：得たもの」、「質問13：満足度」の四項目において、肯定的回答をした回答者が60%を越えている。しかし、「質問1：もともとの関心」で逆に50%を超える回答者が否定的な回答を出している。もともと関心が低い科目に対して、総合評価の評価値を上げている点に、教員の苦労がうかがえる。

一方、5段階評価の五項目では、演習科目と同様の傾向が見られる。すなわち、

- 「質問8：授業の難易度」を除く4項目で「妥当である」ことを示す「③」と回答した回答者が60%を越え、
- 「質問8：授業の難易度」については、「難しい」ことを示す「④、⑤」の回答が40%を越えているのに対し、「易しい」ことを示す「①、②」の回答は5%程度である。

受講者にはどちらかと言えば、難しく感じられているようである。

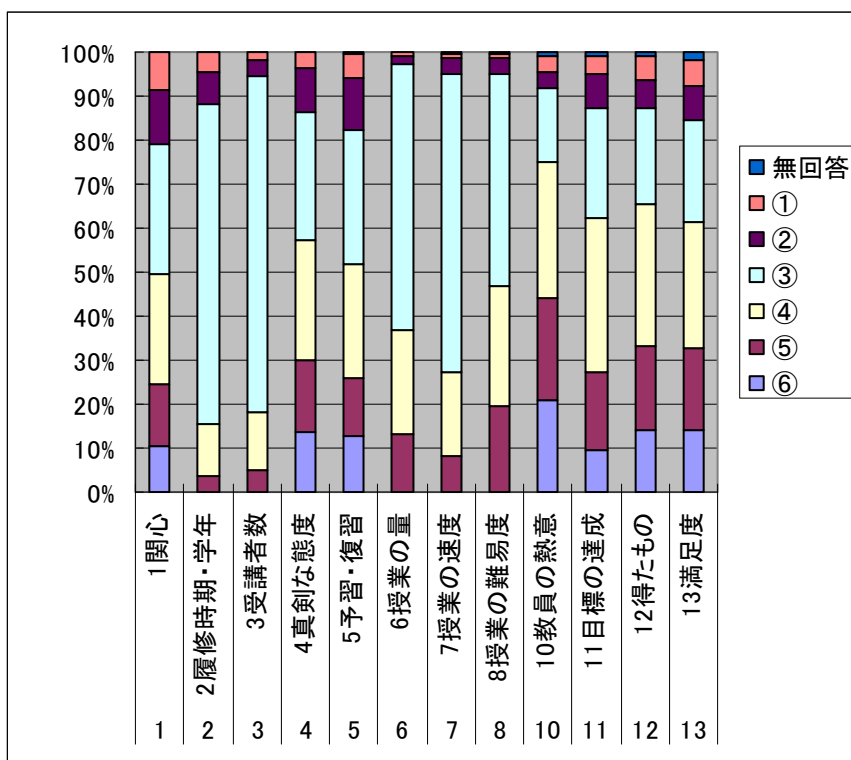


図3 講義科目 H19年度後期評価値

講義科目は演習科目より評価が低いことから、講義科目について、さらに分析を進める。講義科目は以下のカテゴリに分類した。

- I 専門共通科目
- II コース科目
- III 展開科目
- IV 関連科目

図4に、講義科目のカテゴリ別評価値の比較を示す。

講義科目の中でも、カテゴリ毎に差異がある事が分かる。特に「I 専門共通」、「IV 関連科目」においては、「質問1：もともとの関心」が「II コース科目」、「III 展開科目」より相対的に低く、「総合評価」として位置付けられる「質問10～13」の結果も、ほぼそれに沿うものとなっている。全体的には、「II コース科目」において評価値が高く、講座等での取組みが評価できる。

「I 専門共通」、「IV 関連科目」については、「質問 6：授業の量」、「質問 7：授業の速度」、「質問 8：授業の難易度」において、受講者から見てつらい方向の評価に評価が集中している。さらなる改善努力が求められる。

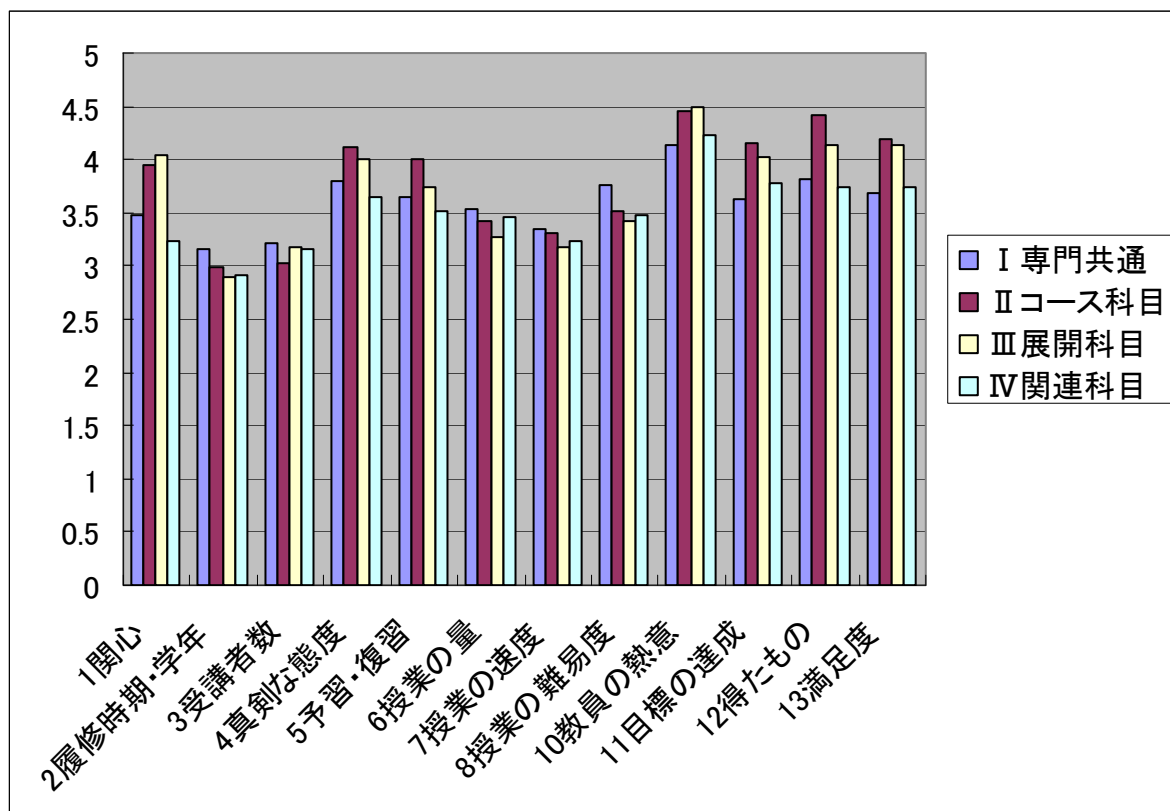


図 4 講義科目のカテゴリ別評価値の比較

講義科目を対象にして、質問項目に対する回答の相関を調べた。「質問 11：目標の達成」、「質問 12：得たもの」、「質問 13：満足度」の 3 項目は、その授業の善悪を包括的に反映する指標と考えられる故に、他の 9 項目とこの 3 項目との間の相関に注目することとする。図 5 に講義科目の質問項目間の相関を示す。

質問 11、12、13 に共通して、「質問 4：真剣な態度で参加できたか」、「質問 5：予習復習や課題に積極的に取り組んだか」といった、受講者自身の取組みに関する項目の相関が高い。それ以外では、「質問 1：もともと強い関心があったか」や「質問 10：教員の熱意をどの程度感じたか」と大きな相関がある事が分かる。一方で、5 段階評価の五項目は相関は低い。前述の通り、これら五項目は概ね妥当との評価が得られているが、そのことが総合評価に直ちに結びついてはいない。教員においては、「授業の量、速度、難易度等の technical なこと」よりも、「熱意といった emotional なこと」の方が包括的な評価に結びつきやすいと考えられる。

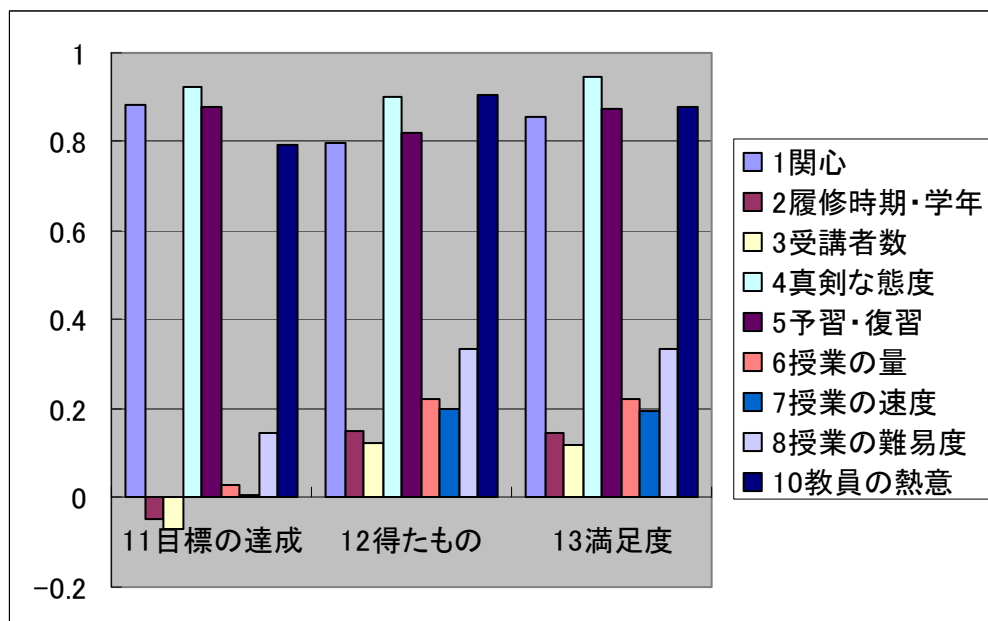


図5 講義科目の質問項目間の相関

2.3 今後の学部の取り組み

平成19年度の評価結果では、講義科目と演習科目共に、12項目すべてにおいて平均的に肯定的回答を得ており、基本的には本学部での授業が評価されている。分析の結果、「授業の量、速度、難易度といった technical なこと」よりも、「熱意といった emotional なこと」の方が包括的な評価に結びつきやすい事が分かった。特に、講義科目においては、熱意をもって授業を努めるよう注意を促してゆく必要がある。授業評価アンケートにおいて「教員の熱意」と「総合的な満足度」の2項目において評価の高かった教員の表彰により、継続的に教員の意識向上を促していく。

(ソフトウェア情報学部 評価委員会)